

2月の県内景況は、前月に比べ悪化。各業種で、円安による原材料価格の上昇や国内景気の足踏み、復興需要の落ち着き等の影響が出た。

情報連絡員による平成29年2月の県内中小企業の景況は、業界全体として「好況」は8.9%（前月比-1.6）となっており、「横這い」は42.9%（同+0.8）、「低調」とするところが48.2%（同+0.8）、業界全体の「景況感DI」は-39.3%（同-2.5）となっています。

1. 全産業の項目別前年同月比DI値の動き

◇「在庫数量」、「設備操業度」、「雇用人員」の項目が前月と比較して好転しています。

2. 業種別の「業界の景況」

◇前年同月と比較して、「快晴」または「晴れ」の業界はなく、食品品製造業、繊維製品製造業、木材木製品製造業、その他の製造業、卸売業、サービス業、建設業、運輸業が「曇り」または「薄曇り」、鉄工機械製造業、小売業、商店街が「大雨」または「雨」となっています。

◇来月の見通しは、好転、やや好転の見込みとの回答が、17.9%（前月比+0.4）と増加しております（好転の回答0件、やや好転の回答10件）（製造業3、非製造業7）。同様に、変わらないが、66.1%（前月比+6.5）と増加しております。一方で、やや悪化、悪化の見込みは、16.0%（前月比-6.8）と減少しております。

平成29年2月の景況について、情報連絡員からの報告は以下のとおりです。（回収率93.3%）

項目別DI 業種区分	売上高		販売価格		収益状況		資金繰り		雇用人員		業界の景況	
	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比
食品品製造	-42.86	-57.14	0.00	0.00	-28.57	-14.29	-14.29	0.00	-14.29	-14.29	-14.29	-14.29
繊維製品製造	-33.33	-33.33	-33.33	-33.33	-33.33	-33.33	-33.33	-33.33	0.00	-33.33	-66.67	0.00
木材木製品製造	-50.00	0.00	0.00	25.00	-50.00	0.00	-50.00	-25.00	0.00	0.00	-25.00	0.00
鉄工機械製造	20.00	-40.00	0.00	0.00	20.00	-20.00	-20.00	-20.00	0.00	-40.00	0.00	-40.00
その他の製造	0.00	-100.00	0.00	-14.29	-42.86	-57.14	-42.86	-42.86	-14.29	0.00	-28.57	-28.57
卸売業	0.00	-50.00	0.00	-25.00	-50.00	0.00	-25.00	-25.00	0.00	0.00	-25.00	0.00
小売業	11.11	-44.44	11.11	11.11	-44.44	-66.67	-22.22	-22.22	-11.11	-22.22	-11.11	-44.44
商店街	-50.00	-75.00	-50.00	-50.00	-25.00	-50.00	-25.00	-25.00	0.00	0.00	-25.00	-50.00
サービス業	20.00	20.00	0.00	20.00	0.00	-40.00	0.00	-20.00	40.00	20.00	0.00	0.00
建設業	0.00	-40.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
運輸業	0.00	0.00	0.00	0.00	-33.33	0.00	-33.33	-33.33	0.00	-66.67	-33.33	0.00

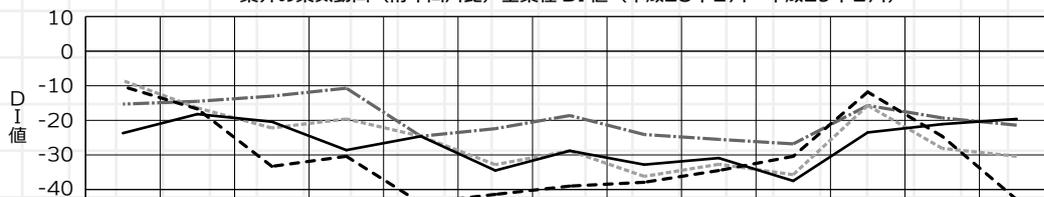
天気図の見方

各景況項目について「増加」（または「好転」）業種割合から「減少」（または「悪化」）業種割合を差し引いた値（D・I値）をもとに作成。その基準は下表のとおりである。

D・I値基準値

- 快晴 30以上
- はれ 10~30未満
- うすぐもり -10~10未満
- くもり -30~-10未満
- 雨 -50~-30未満
- 大雨 -50未満

業界の景気動向（前年同月比）全業種DI値（平成28年2月～平成29年2月）



— 業界の景況
- - - 売上高
... 収益状況
- · - 資金繰り

	平成28年2月	平成28年3月	平成28年4月	平成28年5月	平成28年6月	平成28年7月	平成28年8月	平成28年9月	平成28年10月	平成28年11月	平成28年12月	平成29年1月	平成29年2月
業界の景況	-23.7	-18.2	-20.4	-28.6	-24.6	-34.5	-28.8	-32.8	-30.9	-37.5	-23.5	-21.1	-19.6
売上高	-10.2	-16.7	-33.3	-30.4	-43.9	-41.4	-39.0	-37.9	-34.5	-30.4	-11.8	-24.6	-42.9
収益状況	-8.5	-16.4	-22.2	-19.6	-24.6	-32.8	-28.8	-36.2	-32.7	-35.7	-15.7	-28.1	-30.4
資金繰り	-15.3	-14.5	-13.0	-10.7	-24.6	-22.4	-18.6	-24.1	-25.5	-26.8	-15.7	-19.3	-21.4

食料品製造業

<漬物>

人件費と原料の高騰で収益が厳しくなっている。

<パン>

人手不足が深刻である。時給の急騰も問題。

<味噌醤油>

味噌・醤油の出荷量はいずれも伸び悩み気味。味噌の原料である米は、加工用米の生産から飼料用米に移行する生産者が増加の傾向にある。価格も高騰しており、外国産米にシフトして使用する状況。

<菓子>

震災以降、行事関係の需要が少なくなっている。

<酒造>

売上が伸びず厳しい。輸出についても、台湾、香港での風評被害が大きい。

<食品団地>

今月も原油価格が上がり始めている。消費についても停滞気味は変わらない状況のため、異業種との連携した情報収集が重要となってくる。今後も経済環境の変化や原油価格の高騰等、収益に影響が出てくる見通しで難しい状況が続いている。

木材・木製品製造業

<製材業>

丸太の供給は年明け以降、出材が増え、特に2月は前年より多くなっていた。一方、地元の製品需要に衣服感が出てきたことから需給バランスが崩れ、丸太価格は値下がり傾向となってきた。

<外材輸入>

昨秋よりの為替円安によるコスト上昇局面になりつつあるが、国内の製材品の荷動きは低下傾向にあり、採算面で厳しい状況下にある。

紙・紙加工品

<紙器・段ボール箱>

段ボール箱については、この2、3ヶ月間では仕事量の変化は見られなかった。今年は、天候不順の影響もあり、青果物の出荷量が減少。これに伴い、段ボールの受注量も減少した。また、人手不足が深刻化している点も指摘されている。

印刷

<印刷業>

競争の激化もあり、売上・収益面とも引き続き苦戦している。製紙メーカーの値上げ発表があり、今後、原材料費の高騰によるコスト負担増が危惧される。

窯業・土石製品製造業

<碎石>

(県北地区)

- | | | |
|------------|-------|-------|
| 1. 当月売上数量 | 前月比 | 約3%増 |
| 2. " | 昨年同月比 | 約33%減 |
| 3. 本年度売上数量 | 昨年対比 | 約30%減 |
| 4. 原因・現状 | | |

公共事業及び生コン工場への出荷量が予想以上に伸びなかった。

<生コン>

平成29年2月の組合員生コン出荷数量は、126,895m³と対前年同月比-17.9%。出荷数量の内訳は、民需が対前年同月比-25.6%、官公需が-26.5%であった。

○民需の動向

対前年同月比 -25.6%

対前年同月比増加地区

なし

対前年同月比減少地区

<県北地区> -24.6% 市内病院移転新築工事等

<県中地区> -47.5% 市内病院治療センター増築工事等

<白河地区> -25.2% 工場倉庫増築工事等

<会津地区> -8.2% マンション、老人福祉施設建設工事等

<相双地区> -21.7% 第一原発固体廃棄物貯蔵庫、ロックウール生産工場建設工事等

<いわき地区> -17.9% ショッピングモール新設工事、小名浜SS(セメント基地)建設工事等

○官公需の動向

対前年同月比 -26.5%

対前年同月比増加地区

<白河地区> +53.2% 千五沢ダム改築、ひらた清風中体育館建設工事等

対前年同月比減少地区

<県北地区> -0.9% 県立医大手術棟新築工事、相馬福島道高架橋工事等

<県中地区> -17.0% 西部第一工場団地造成工事、三森1号トンネル舗装工事等

<いわき地区> -34.5% 港湾災害復旧、市内公立病院新築工事等

<相双地区> -32.8% 廃炉国際共同研究センター建設、海岸線復旧、漁港復旧工事等

<会津地区> -28.6% 喜多方市葬祭場新築工事、城前団地工事等

<鉄工工業>

鉄骨製缶共に受注量が少ない。

<各種プラント機器>

当組合のプラント設備関連業界は、売上高が前月比で43%減となり、前年同月比においても70%減と大きく減少し、低調な取引となっている。累計においても前年比41%減と、前年度を大きく下回る厳しい状況である。

<漆器>

大都市の百貨店も来店客数が少なく、動きが鈍い。東京テーブルウェアフェスティバルに出展し、売上は30%増となったが、採算的には厳しい。

卸売業

<卸売業>

(県中地区)

日用品等卸の2月期は、全体として低調であった。復興需要は、すでに終わっており、一層の自助努力が求められている。さらに、取引先である小売店舗の減少に歯止めがかからず、厳しい状況。それでも、大手小売業との取引ボリュームが大きいところは概ね順調だ。現在は、ネット通販が競合相手になっている。消費ボリュームが落ち込んでいるということではなく、ネット通販自体が消費行動の選択肢となっている。この傾向は、今後も続くことは間違いなく、日用品卸は新たな対応に迫られている。それから、人手不足。これは日用品業界に限ったことではなく、業種業態を問わず広がりを見せている。

<再生資源>

古紙市場は国内、輸出ともに価格は安定しているが、回収量は依然低調である。鉄スクラップ市況は海外市況の上昇から強気ムードが続き、3月以降の先行きも

強気な見方で推移している。

<米麦事業>

当組合の販売品目は米穀のみなので、平成28年秋に収穫した米穀を主に秋から初夏にかけて販売している。このため、夏から秋の米穀の収穫時期までは販売数量が激減する。なお、米穀の販売単価は昨年より上昇し、売上高が増えた。

小売業

<共同店舗>

(Oショッピングセンター)

吊るし雛効果で県内からの来店客があったものの、全体的には売上が伸び悩んだ。次月、新生活に向け商品提案の工夫をしていきたい。

(Nショッピングセンター)

同敷地内の再開発もほぼ終了し、ドラッグストアが開店した。全体としては、プラス要因と捉える事ができと思うが、部分的な競合等の調整が必要である。

<石油>

元売各社の仕入価格が上昇するも、市場での転嫁には至っていない。特に、県中地区を中心とした価格競争が激化し、仕入価格を下回る小売価格が散見される状況となっている。

<水産物>

荒れた天候の日が多かったため、入荷が少なく、仕入価格も上昇。加えて、いつもの月より日数が少ないこともあり、売上が減少し、月末の資金繰りに影響が出た。

<青果>

前月から引き続き、野菜単価が高騰となり品数も減少した。昨年に比べれば、ある程度の積雪もあり雪下野菜の取扱もあったが、営業日が昨年の同月と比べ2日間少ないことから売上自体は減少となった。来月は、春彼岸もあることで取引が増加することを期待したい。

<家電>

業界全体としては、今後、個展、合展が各地で行われるので少し好転すると思われる。春に向け徐々に良くなると思う。

商店街

<南相馬市>

商店街イベントも特になく、低調気味。「栄町ナイトバザー」は恒例行事で、この日ばかりは賑わいを見せる。今後イベントで賑わいをつくらない限り、個店の努力だけでは厳しい状況といえる。

<会津若松市>

降雪の多い1ヶ月であった。各店舗毎朝雪かきに追われていた。雪の多い日は客足も遠くなり、アーケードの必要性を改めて実感した。長かった冬も終わろうとしている。春に向けて気持ち新たに頑張っていきたい。

<いわき市>

風が強く、寒い日が多かったため、商店街へ買物に来られるお客様は少なかったと感じる。衣料品店を中心に中旬から急に売上が下降したとの声もある。飲食も同様に厳しさを表情に出すようになった。春らしい天候にならないと人も出てこないのか。足下の景気は決して良くない。景気が良くなっても、この商店街で買い物をしてもらえるのか。復興景気が下降している今、真剣に考えていかないといけない。

サービス業

<旅館業>

(土湯温泉)

3月に4月開催の土湯こけしまつりのイベントとして「こけ博」を開催することとした。3月の毎週土曜は、土湯温泉に来ると「こけイベント」が見られるという企画である。また、4月から7月にかけては、土湯温泉町地域の花と日帰り入浴を組み合わせた「花と温泉のんびりラリー」企画を実施する。地域の観光資源を掘り起こし、人が地域内を何度も訪れる企画づくりを今後も進める。

<理容業>

年末に調髪したお客様たちが来店し、少しだが1月より売上はよかった。それほど雪も降らなかったため悪い影響もでなかった。大きな変化もなく、どの地域も例年通りの状況のようだ。3月は卒業シーズンでもあり、毎年少し忙しくなる時期であるので期待をしている。これといった新しいスタイルの流行もないが新社会人になる人たちに就活ヘア等、個性を活かすスタイル等を提案していきたい。

<一般廃棄物収集運搬>

通常業務については前月実績でほぼ同額の売り上げで推移している。震災関連事業が2015年10月からスタートし、2016年9月より本格稼働となった。現在のところ安定していると思われる。産業廃棄物に関しては依然として排出量は震災前の水準には届かず、しばらくは増加することはないと思われる。雇用については組合員各社でも人材の確保については苦慮している。しかしながら、募集要件を緩和することによりわずかながら応募が増えている。また、ネット媒体の活用により、さらに多くの応募があった。地域を広げることによる効果があることが分かり、今後の人材確保に向けて選択肢が多くなった。

建設業

<建設業>

(県南地区)

土木・建築工事共に受注が減少したままで、今後の見通しも良くない。落札価格が低くなってきており、中小規模以下の建設業者の受注が出来にくくなってきている。このままでは、災害時や除雪など、いざというときに地元で頼りになる建設業者が減少してしまう恐れがある。除染は、道路、森林、水路などが残っているが、規模が小さい。

<管工事>

前月比で、給水設備申請が減少し、排水設備申請が増加。前年同月累計対比では、給水設備申請が増加し排水設備申請が減少している。

<専門工事>

来年度の新卒者の採用を含めた活動が始まってきたが、専門工事業者としては非常に苦戦している状況が見受けられる。特定の業種への中途採用者等は確保されている様に見えるものの、業界に対する全体的な意識は徹底されておらず、将来的な展望のないまま眼前の状況にただ流されている状態であることを感じている。若手と女性が活躍できるようにと謳っているものの、地方ではいまだに社会保障すらないがしろにされているのが現状であり、業界をあげて、至急対応していかないと間に合わなくなることを懸念している。

運輸業

<トラック団地>

(県北地区)

燃料価格が上昇してきている。今のところは利益に

影響ない程度であるが、今後は更なる値上がりも予想されるため注視していきたい。

<ハイヤータクシー>

例年2月は動きが少ない。低調状態が継続しており、厳しい状況である。